



●令和4年度発掘調査成果発表会・展示会

内容：かながわ考古学財団が令和3年度に発掘調査を実施した遺跡の調査成果について発表します。

また、出土した遺物の展示を行います。

日時：【発表会】令和4年10月1日（土）

【展示会】令和4年9月27日（火）～10月2日（日）

会場：【発表会】横浜市歴史博物館 講堂（横浜市都筑区中川中央1-18-1）

【展示会】横浜市歴史博物館 2階廊下部分

申込：【発表会】不要 入場・参加費無料（先着順、180席）

【展示会】不要 無料

●東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー

内容：今回は「遺跡・遺構が語るいのり」をテーマとしています。

日時：2022（令和4）年12月4日（日）

会場：行田市教育文化センター（住所：埼玉県行田市佐間3-24-7）

主催：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催：（公財）東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター・（公財）かながわ考古学財団、行田市教育委員会

後援：埼玉県教育委員会

申込：必要 事前申し込み（抽選） 定員：240名（無料）

●公開講座「古代から中世へ～時代の変換点に生きた相模の人々の暮らし～」

内容：「器」や「遺構」を通じて、相模の人々の社会と文化の変動期について検討します。あわせて遺物の展示も行います。

日時：2022（令和4）年12月10日（土）

【遺物展示】令和4年12月5日（月）～16日（金）

会場：伊勢原市中央公民館展示室ホール（伊勢原市東大竹1-21-1）※財団 Youtube ちゃんねるで配信予定

【遺物展示】伊勢原市中央公民館ロビー（入場無料）

共催：伊勢原市教育委員会

申込：必要 事前申し込み

●関東考古学フェア スランプラリー 2022

内容：関東各都県の埋蔵文化財センターや博物館・資料館などの対象施設を見学して、2都県以上で3館以上のスタンプを集めてみましょう。抽選でオリジナルカレンダーが当たります！

詳しくは「関東考古学フェアスタンプラリー 2022」を検索。

開催期間：2022（令和4）年6月11日（土）～11月27日（日）まで

※申し込み方法など、財団行事の詳細はホームページや各種 SNS でお知らせします。掲載をお待ちください。

●当財団の Twitter・YouTube チャンネルがスタートしました！

ホームページや Facebook に加え、新たに Twitter と YouTube チャンネルを開設いたしました。これからも当財団の活動を投稿していきますので、是非、フォローとチャンネル登録をよろしくお願いします！

過去の投稿は QR コードをチェック！→〈Twitter〉〈YouTube〉



お問い合わせ

（公財）かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-252-8689（代） FAX: 045-261-8162



〈財団 HP〉

発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。



かながわ考古学財団情報誌

発掘帖 No. 38

2022(令和4)年下半年期号

令和4年9月30日発行

編集・発行：（公財）かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

TEL: 045-252-8689 FAX: 045-261-8162

ホームページ: https://www.kaf.or.jp



密集して存在する埋蔵

またまた大発見!? 密集する縄文時代の墓

にしとみおか
西富岡・向畑遺跡
むこうばたいせき



※耳栓は神奈川県教育委員会所蔵



① 埋蔵の中から見つかった頭蓋骨 ② 耳栓

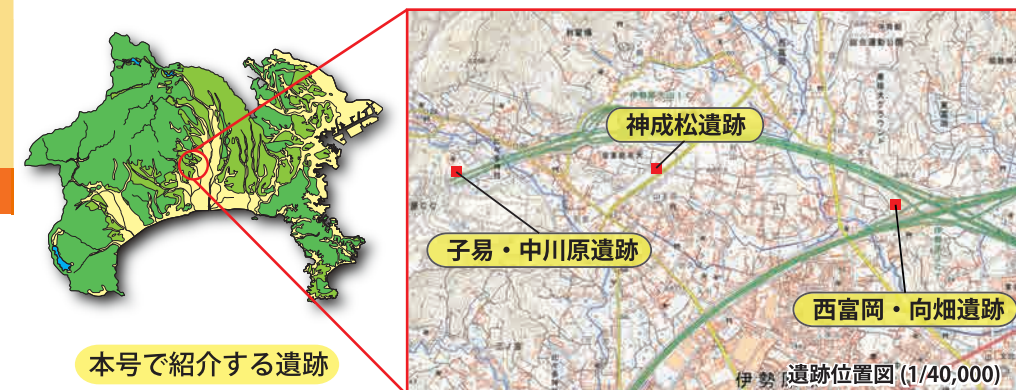
西富岡・向畑遺跡は神奈川県伊勢原市に所在します。平成19年度から調査を開始し、令和4年度も続いています。令和3年度には調査区の一画で縄文時代晩期の埋没林が発見されました。この埋没林は、通常だと有機質遺物が残らない台地上で発見されたため、貴重な資料だといえます。

埋没林の下層からは、縄文時代後期の竪穴住居跡5軒、埋甕^{うめがめ}17基、土坑墓1基などが発見されました。埋甕は複数で密集するグループと、単独で埋設されるグループの2つに分けられます。その埋甕の1基からは、頭蓋骨と朱塗りの耳栓^{じせん}が見つかり、再葬墓^{さいそうぼ}と考えられます。頭蓋骨は西側に顔面を向け、正位で置かれた状態で見つかりました。

次ページのコラムに続きます

次の見開きページは、令和3年度の発掘調査成果から、「遠隔地との関わりが考えられる遺物」についてご紹介しています！是非、写真を見比べてみてください！

※調査の内容は発掘時点の成果であり、調査の進展及び出土品整理作業において、名称や評価を変更する場合があります。



本号で紹介する遺跡